

(9) 積丹地域

指定基準	講 評	該当 状況
イ.当該地域マリンビジョンが、地域のポテンシャルを活かすとともに個性ある計画となっていること。	積丹地域は「積丹ブルーの海と緑の大地のもとに多くの人が集う地域をつくる」をキャッチフレーズとして、年間120万人の観光客が訪れる道内有数の観光地としてのポテンシャルと豊かな自然景観等の地域資源を活かし、観光客誘致方策の検討や地場加工品開発の検討などの地域全体の連携・協働による取組みが計画されており、地域のポテンシャルを活かした個性ある計画となっている。	
ロ.当該地域マリンビジョンが、独創性、先駆性、広域性のいずれかが認められるとともに、他地域モデルとして見込み、北海道マリンビジョン21の具現化に資する計画となっていること。	ビジョンは地域にとって有益なものとなっているものの、現段階で他地域を先導するような顕著なモデル性は見受けられない。 今後、道内有数の観光地である地理的条件と地域の水産業の特徴を活かし、具体的な取組みを期待したい。	
ハ.当該地域マリンビジョンが、地域協議会の十分な議論・調整を踏まえた計画であること。また、地域マリンビジョン策定後であっても、適宜地域協議会において当該地域マリンビジョンの円滑な推進を図る計画となっていること。	多様な参加者による協議会における議論のほか、分野別分科会が開催される等、十分な議論がなされた計画であると評価できる。また、策定状況を各自治会に説明し、広報誌に掲載するなど地域での合意形成に工夫がなされており、地域の合意形成を意識したビジョンを推進する環境づくりも評価できる。	
ニ.当該地域マリンビジョンに位置付けられている拠点漁港が、北海道マリンビジョン21の趣旨に鑑み、計画において拠点漁港のいずれかに該当すること。	拠点となる美国漁港においては、グラスボートの発着基地となっているとともに、観光客の円滑なアクセスを確保する臨港道路の整備も計画されており、地域マリンビジョンの一助になると期待されるほか、ビジョン実現に向けた具体的な取組みによって漁港の効用が最大限発揮されるものと考えられる。	
ホ.地域マリンビジョンの実現に向けた取組み内容が各実行主体ごとに明確になっているほか、それらの取組みが地域において継続的に行われる等、地域マリンビジョン及び取組み主体の熟度が認められること。	ビジョンの取組みは一部実施されているものの、中心となるニセコ・積丹観光との連携については、その具体性に課題を残している。 今後は、具体的な取組みを検討し、明確な実施主体と関係者の連携により、より実現性の高いものとなることを期待したい。また、周辺漁港との連携についても重要と考えられる。	